

2024年12月12日(木) 日本農業新聞

「千切りキャベツは『1袋100円』から脱却しない限り、市場が育たない」と話すのは、カット野菜製造大手・サラダクラブの金子俊浩社長。11月末に開いた報道各社との座談会で、長く据え置いてきた商品価格の見直しを検討する考えを示した。



物価の優等生”と呼ばれるカット野菜

菜。一定で値頃な価格がニーズをつかみ、市場を広げてきた。しかし、農業従事者の減少に極端な天候不順が加わり、野菜の調達事情は悪化。商品製造コストも増している。一方で小売りへの納入価格は据え置かれ、カット業者は経営が圧迫される上、契約農家にも

サラダクラブ・金子俊浩社長 M005  
「1袋100円」脱却を

無理な供給を強いる形となっている。

同社は10月、1袋130円だった千切りキャベツの内容量を10%削減。実質的な値上げに踏み切った。今後、価格自体の見直しも検討する。金子社長は「業界の潮目は変わってきた。(需給バランスに合わせて容量や価格を)柔軟に変えていかないと、われわれも生産者も共倒れになってしまう」と危機感を強める。

持続的な原料調達、商品製造を続けるには、小売りや消費者の理解が不可欠。「少人数世帯の増加や、タ イパグニーズなど、現在の生活実態に合致した商品」と価格以外の価値を訴求し、商慣習の新たな形を模索していく。(随時掲載)

大目小目